



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

人間的ふれあい

三菱商事副会長 山田 敬三郎氏

東京丸の内伝統あるビジネス街の中央に腰をすえる、三菱商事本社に山田敬三郎副会長を訪ねた。
温和な笑顔の中にも、大企業のトップ・グループに昇りつめただけの気魄と何事にもチャレンジするバイタリティを感じた。また、これからの日本の発展は、世界各国の人たちと裸のつきあいをやり、相互の信頼関係をつくることにあると熱っぽく語る。
明治四十二年十一月八日、熊本市河原町に生れ、熊中、五高と進み、昭和八年三月、東京帝国大学法学部卒。
昭和八年四月、三菱商事入社、昭和三十九年五月、取締役石油第一部長、昭和四十三年、米國三菱商事取締役社長、昭和五十三年六月取締役副会長。

河原町出身

河原町(熊本市)の生まれなんです。父が、あの界わいはすっかり変わってしまったなあ。出田実業のあたりは、昔は、いちよう並木がずっとあったところなんです。もちろん下水道などなくて、近辺の道を掘ると、ミミズがいっぱいいたりにしてね。池の鯉にやったりした思い出がありますよ。また、繊維問屋が多い街でした。

九人兄弟でしてね。現在、熊本に二人、東京に五人いますよ。父は商売、雑貨問屋をやっていたんです。母がその頃、熊本から京都の府立高女までいったような女

傑でした。それで、子供の躰は父より母の方が厳しかったなあ。遅く帰ったり、勉強をしなかったりしたら、ものさしが飛んできましてよ。まあ、子供の頃はヤンチャ坊主の方だったかな。(笑)

慶徳小学校、熊本中学、第五高等学校と熊本の学校に通い、東京大学に行くんです。

我々の頃はみんな歩いて中学・高等学校と通ったものです。電車が来ても、電車なんてのは年寄りが乗るものだね。それが今日の健康のもとであるのと、勉強の一つの転換だったみたい。労するのと、新しい立場からの新しい勉強をやる方法が発見できるんですよ。それで、五高の頃も歩いて通

学したものです。

今はこんなことないと思うけど、五高は試験があると、その成績順に座席が決っていたんです。成績が悪くて後の方に座っていたって、今みたいに卑下するのは全然なくなってね。お前は勉強したから一番になったが、俺は勉強しなかったからビリだったとか。みんなザックバラだったです。

ね。まあ、そういう気持でお互い切磋琢磨していた。裸の付き合いをしていたんです。これは、熊本の中学・五高の伝統だったんです。だから、今でも東京で五高会があると、他の県の者もみんな一緒になって騒いで、最後に武夫原頭を踊って解散するんです。まあ、そういうふうには高等学校時代を楽しむということは、五高の雰囲気と共に、熊本の土壌の中にある裸で付き合いということを楽しんでいるんです。この会は、元総理の池田さん、佐藤さんの時代から続いています。楽しいことですね。

裸のつきあい

東大を卒業して三菱商事に入社

したんですが、これは友人の親父さんから三菱を受けてみないかと誘われたのと、親父が商売やっていたんですが、親父に出来なかったような商売をやってみたいというのが入社の動機なんです。知らぬ間に副会長になっていたという感じで――。意識して出世しようなんて思わなかったんだが、人間というものは十分自分を知っていればいいもので、自分以上を見せようと、自分にはないものを見せ

ようとしたらボロが出ますね。自分のありのままをぶつけていくというのが本当の人生じゃないでしょうか。その結果ですよ。上になろうと、なるまいと。

それとですね。僕の場合は石油から始まり、天然ガスとか原子力とか総合的なエネルギーに取り組むことになったんですが、人間というのは先をよく見てよく考え、勉強し、新しいものにぶつかって行く、チャレンジする気魄が大事

だと思えますよ。結局、人間社会というのは相手があることだから、いろんな商売やっていますが、基本は人と人の付き合いではないでしょうか。地方行政に当たって同じですよ。住民との共感がなくては何もできない。たとえば、よく中近東に行くんですが、裸で付き合い合っているとですね、サウジの人たちもわかるんですよ。最近、僕が行くと、「オヤジが来た。」と言って歓迎してくれるんですよ。そういうところに人生のおもしろさがあるし、また、日本として進むべき道があるような感じがしているんですよ。

エネルギー情勢

最近のエネルギー情勢は、相当変わってきています。転換期ですね。というのは、過去二十年間をみてみると、大体、最初の十二年間は買手の方が強くて、産油国から買いたたいていたんですね。シェルとか、モービルとかのメジャーがですね。ところが、イラン革命を契機にして、今度は逆に産油国がこれに反発して一緒に

ではやらんぞという具合で、七、八年間引っぱってきた。ところが、産油国がそういう態度をとったもので、消費国はさかんに消費節約をやるし、エネルギーの効率化、石炭の見直し、開発をやるし、とにかくエネルギーの使用がうまくなっただけです。極端に言えば、昔はGNPを「一・〇」上げるのにエネルギーが「一・数倍」と上がっていたのが、最近逆になつて「〇・四」とかなんかです。うになつてきました。特に、日本はうまく消費節約に対応しているんですが、そういうふうには世界の消費国が一生懸命努力した結果、消費が大きく減ってきたわけですね。一方、産油国の方は、まあ、いい気になって消費国をいじめてきたと言っては語弊がありますが、OPEC以外の石油の増産なども始まってきて、今、どっちかというところ、去年の暮れ頃から「買ってこれ」という立場になって来てつづつあるようです。そして、エネルギーにしたって、いろいろ勉強したもので、油だけではなく、ガスとか、いろんなそれに類似したものも出て来たもんだから、お互

